

城南家保ニュース Vol. 21-11

熊本県城南家畜保健衛生所 平成22年 2月 発行

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/179/>

電話 0966-22-3814、FAX 0966-22-3617



オーエスキー病が清浄化されます！

平成5年に管内でオーエスキー病（豚の病気）がはじめて確認されて以来15年余り経過し、ようやく平成22年4月から清浄化（熊本県にオーエスキー病の豚がいない状態）される見込みです。

当家保研修館において、城南地域オーエスキー病防疫協議会が、2月15日（月）に開催されました。これまでのオーエスキー病清浄化への取り組みと、今後の対策についてお話をしました。長い歳月と畜産関係者の厚い努力の賜と感謝し、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



なお、これまでの清浄化への取り組みについては、平成22年2月4日に開催されました九州ブロック家畜保健衛生業績発表会で担当の井出参事が発表しました。

家畜衛生伝達講習会が開催されました！

平成21年度家畜衛生伝達講習会が2月19日に熊本県庁で開催され、県内各家畜保健衛生所から、今年度全国的に行われた各専門分野の講習・研修内容を広く伝達する行事とあって、会場には畜産関係者や製薬会社等幅広い参加があり、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

特別講演

講師：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所

生産病研究チーム 主任研究員 菊 佳男 先生

テーマ：「抗生物質治療に替わる次世代乳房炎治療法の可能性」

～サイトカインによる乳房炎治療の現状と展望～

知っ得コーナー

胸腺とは

免疫を掌る細胞（血液中の白血球：リンパ球）を主に生産し、人では胸腔内に位置し、思春期を迎える頃には消えて無くなる器官です。牛でも育成時期を過ぎれば消失しますが、牛の白血病（ここでは胸腺型白血病）に罹れば頸の胸腺が腫れます。現在にわかに脚光を浴びているのが、生後間もない子牛の胸腺の大きさがその後の発育に伴う抗病性に大きく影響していて、胎齢期の母牛の栄養状態により大きさに違いがあるということです。